



Victor

先進の個性

QL-Y44F

エレクトロサーボフルオートプレーヤー

取扱説明書



目次

保証とアフターサービス	1
ご注意	
安全上の注意	2
取り扱い上の注意	2
ご使用前に	
開梱と組立	3
針圧調整	3
アンプへの接続	4
主要部分の名称および働き	5
使いかた	
ご使用前に	7
レコードの聞きかた	7
自動演奏をする場合	7
手動演奏をする場合	7
特殊レコードの場合	8
演奏を途中で一時中断する場合	8
演奏を再開する場合	8
くり返し演奏をする場合	8
演奏を途中で中止する場合	8
レコード針の交換	9
カートリッジの交換	9
調整	
オーバーハング調整	9
エレベーター高さ調整	9
リードイン（針先降下位置）調整	9
故障？と思う前に	10
仕様	裏表紙
寸法図	裏表紙

—お買いあげありがとうございます—

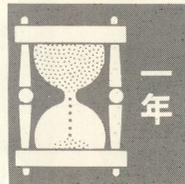
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。

保証とアフターサービス



●保証書には購入年月日が必要

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および 記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。



●保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。そのほか詳細は、保証書をご覧ください。



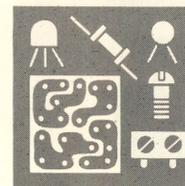
●アフターサービスのお問い合わせ

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。もよりのサービス窓口にお申し出、ご相談ください。



●保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。



●補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。



●修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度「故障？ と思う前に」の項・10ページをご参照のうえ、よくお調べください。それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- ・型式：QL-Y44F
- ・住所、氏名、電話番号、道順
- ・訪問希望日
- ・故障状態をできるだけ詳しく

ご注意

■ 安全上の注意

●電源

電源はかならず AC（交流）100 V をご使用ください。

電源周波数については、50Hz 地域でも 60Hz 地域でもそのまま使用できます。

●電源コード

・電源コードを抜き差しするとき、ぬれた手でさわったり、コードを引っばったりすると感電 または断線事故の原因となります。

電源コードの抜き差しには、かならず電源プラグを持っておこなってください。

・電源コードを折り曲げたり、継ぎ足したり、家具などの重い物ではさんだりした場合、火災や感電の原因となります。

・旅行などで長時間ご使用にならないときには、電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。

●異常現象

煙がでている、変な臭いがする……などの故障状態のまま使用すると危険です。

急いで電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

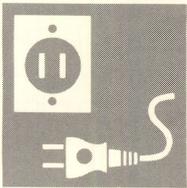
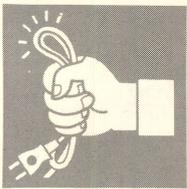
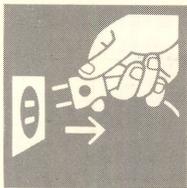
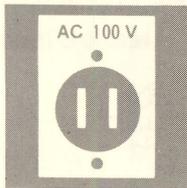
●内部点検

本機の内部に触れることは、危険でしかも故障の原因となることがありますので、内部点検 および 調整は販売店にご相談ください。

●水は大敵

本機の上に花びんなど、水のはいった容器は置かないでください。

もし、水がはいった場合には、電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。



■ 取り扱い上の注意

●誤動作防止

本機ではレコードの有無やレコードの大きさを光センサーで検知しております。誤動作を防止するためにも、直射日光やスポットライトなどはあてないでください。

なお、透明なレコードや色付きレコードの場合には、手動演奏でお楽しみください。

●カートリッジの取り扱い

本機は MC 型 カートリッジを使用していますので、針先に異常な力を加えますと、コイルが断線して音が出なくなります。取り扱いには十分ご注意ください。

●設置上の注意

長くご愛用いただくためには、次の点に配慮しながら設置してください。

- ・周囲温度 5℃ ~ 40℃
- ・水気や油煙の当たらない所
- ・ほこりや振動の少ない所
- ・水平で安定した所

●キャビネットの変形・変色

直射日光やストーブの近くに設置すると、キャビネットの変形・変色を招くことがあります。このような場所には、設置しないでください。

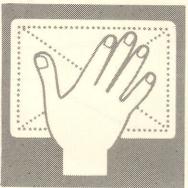
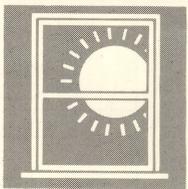
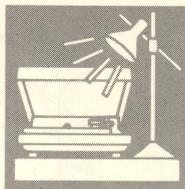
●キャビネットの手入れ

汚れがひどい場合には、中性洗剤などで汚れを落とし、乾いた柔らかい布でむらなくキャビネット全体をふきとってください。

なお、シンナーやベンジン、殺虫剤など揮発性のものをかけたりすると、変色することがあります。

●外国での使用

本機は日本国内用に作られていますので、「電源電圧」の異なる外国では使用できません。



ご使用前に

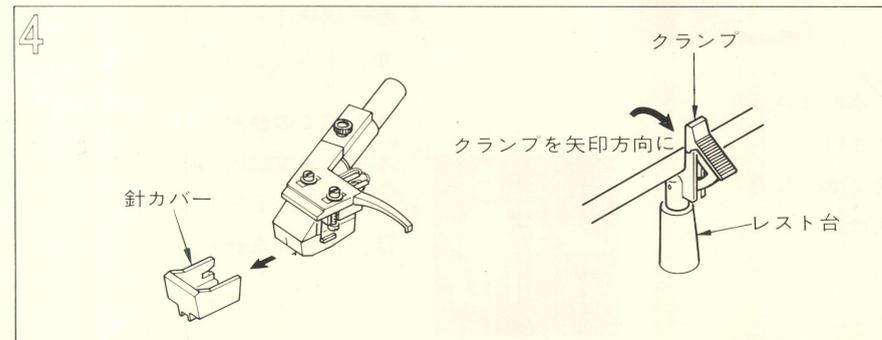
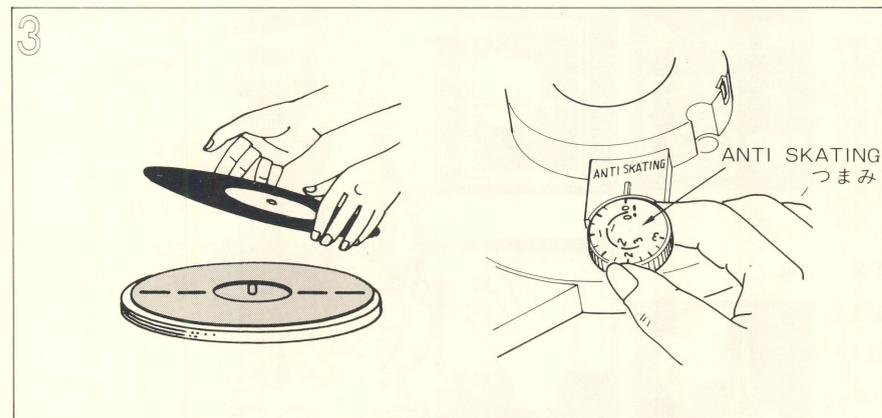
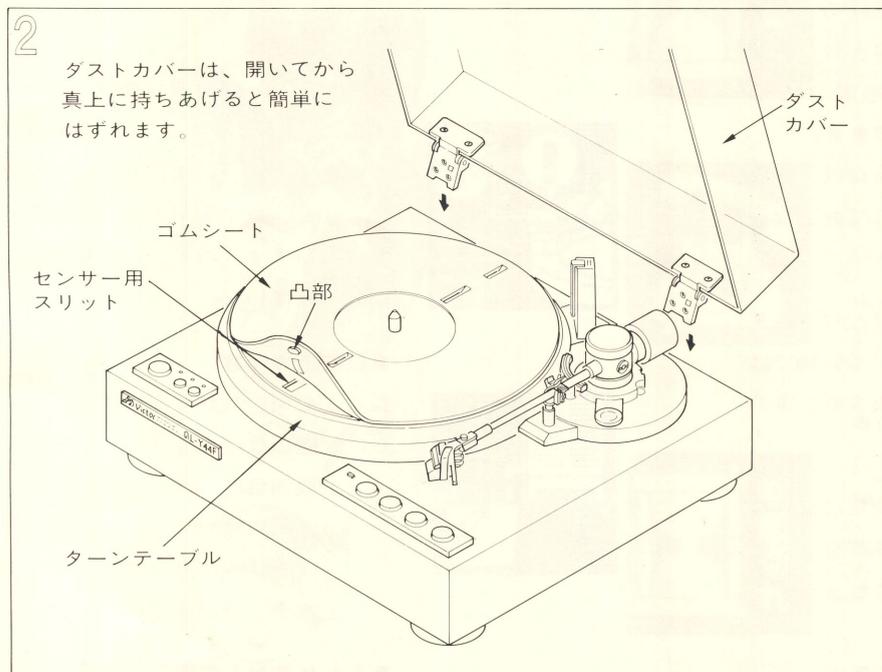
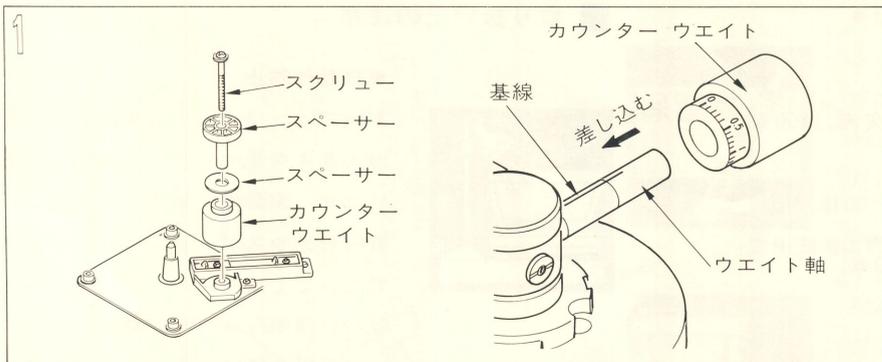
— すべての準備が終るまで、本機とアンプ側の電源

開梱と組立

1. カウンター ウェイトを取りはずし、ウェイト軸に差し込んでください。
2. ターンテーブルはダンボールケースの底当部に、また ゴムシートはダストカバーの上に添付されておりますので、それぞれ図をご参照のうえ取り付けてください。
なお、本機ではレコードの大きさを検出するため、ターンテーブルとゴムシートにはセンサー用スリットがあります。ゴムシートを取り付けるときには、裏面の凸部をターンテーブルのセンサー用スリットに合わせてください。

針圧調整

3. 30cm レコードをターンテーブルにのせ、ANTI-^{アンチ}スケーティング SKATING つまみを“0”に合わせます。
4. 針カバーとレスト台のクランプを取りはずし、トーンアームをレコード面まで持ってゆきます。
5. カウンター ウェイトを“A”方向に回し、針先がわずかにレコード面に触れるか触れないか、ぎりぎりのところでカウンター ウェイトを止めます。
6. トーンアームをクランプで固定して針圧目盛盤だけを回し、針圧目盛盤の“0”を基線に合わせてください。
7. 本機のカートリッジでは、適正針圧が 1.75g です。カウンター ウェイトを更に“A”方向に回し、針圧目盛盤の“1.75”を基線に合わせてください。



プラグはコンセントにさしこまないでくださいー

5

カウンター ウェイト

"A" "B"

レコード面

うしろが重すぎてトーンアームのバランスがとれない

レコード面

"0" (ゼロ) バランスしている状態 (針圧が0グラムとなります)

カウンター ウェイトを "A" 方向に回しますと針圧は重くなり、"B" 方向で軽くなります。
この場合、いくら針圧目盛盤だけを回しても針圧はかかまりせん。

6

クランプ

クランプを矢印方向に

レスト台

針圧目盛盤

7

カウンター ウェイト

基線

針圧目盛盤

基線

8

ANTI SKATING

ANTI SKATING つまみ

9

MCカートリッジの使えるアンプは

そのまま使う

MCカートリッジを使えないアンプなら?

昇圧トランスかヘッドアンプを加えて使う

10

白いプラグ

赤いプラグ

アース線

電源プラグ

8. ANTI-SKATING つまみを使用するカートリッジの針圧値に合わせます。

ANTI-SKATING つまみには、●印 (丸針用) と ●印 (楕円針やシバタ針用) の2つの目盛が印されていますので、本機のような楕円針では、●印の "1.75" を基線に合わせてください。

アンプへの接続

9. MC カートリッジの使えるアンプをご用意ください。

MC カートリッジが使えないアンプをお持ちのかたは、MC用の昇圧トランス または ヘッドアンプが必要です。

10. シグナルコードの白いプラグはアンプ "PHONO" 端子の左チャンネルに、赤いプラグは右チャンネルに、またアース線は "アース" 端子にそれぞれ接続します。

なお、電源プラグはご家庭のコンセントか、または アンプ側のコンセントを使用するときには、"SWITCHED" 側に接続してください。

主要部分の名称および働き

リピート REPEAT

レコードを何回でもくり返して聞く場合は、このボタンを押してください。REPEAT インジケーターが点灯します。

なお、くり返し演奏を解除するときには、もう一度このボタンを押して REPEAT インジケーターを消してください。

(注)・レコード演奏中に START/STOP ボタンを押すと自動的に、くり返し演奏が解除され、トーンアームはレスト台にもどされます。

スピード インジケーター

このインジケーターはターンテーブルの回転数を表示するものです。

なお、SPEED ボタンの操作によってターンテーブルの回転数が変わると、その回転数に合ったインジケーターが表示されます。

パワー POWER

本機に電源をいれる場合、このボタンを押してください。

本機に電源がはいると、SPEED インジケーター および レコード検出用センサー光源が点灯します。

なお、電源を切る場合には、もう一度このボタンを押してください。

(注)・本機では POWER のボタンを切っても、約 2.5 W の電力が消費されております。

ご旅行などで長期にわたって使用しないときには、電源プラグをご家庭のコンセントから抜いて、節電を心がけましょう。

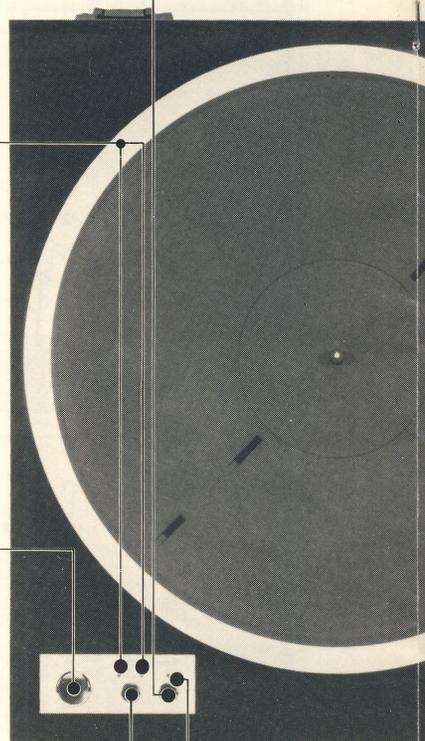
スピード SPEED

17cm レコードでは 45回転に、また 30cm レコードでは $33\frac{1}{3}$ 回転に自動的にセットされます。

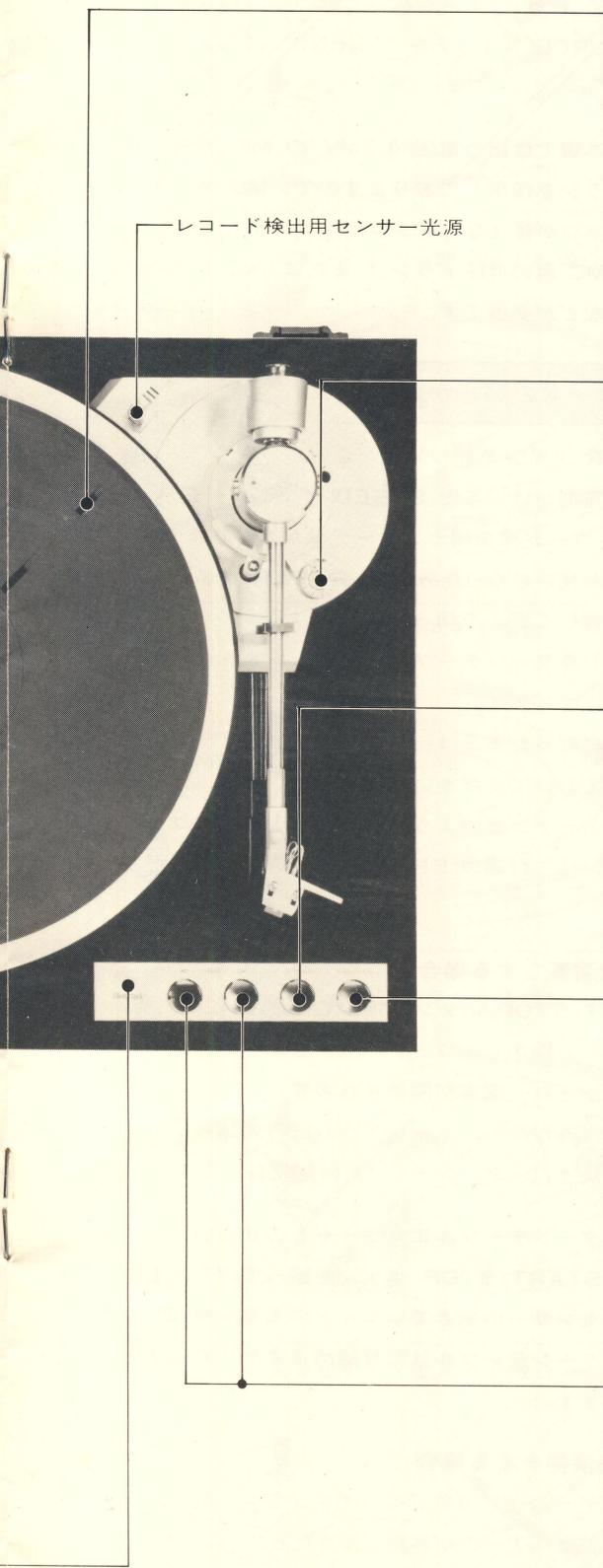
このボタンを押すと、レコード サイズにかかわらず $33\frac{1}{3}$ 回転 あるいは 45回転に切り替わります。

クォーツ ロック QUARTZ LOCK インジケーター

ターンテーブルの回転数が安定しますと、このインジケーターが点灯します。



リピート
インジケーター



センサー用スリット

レコード検出用センサーの光がこのスリットを通るか否かによって、レコードの大きさを検出しますので、このスリットを故意にふさいだり、直射日光が当たったり、また スポットライトなどで強く照らしたりすると、正常に働かない場合があります。

アンチ スケーティング ANTI - SKATING

使用するカートリッジに合わせてこのつまみを回しますと、求心力によってトーンアームが内側に引っぱられようとする力を打ち消し、針先のすべりやレコード溝の内周方向に加わる力を防止することができます。

この場合、丸針は ● 印、楕円針やシバタ針の場合には、● 印の目盛に、使用するカートリッジの針圧と同じ数値に合わせてください。

アップ ダウン UP/DOWN

トーンアームがあがっている状態でこのボタンを押すとトーンアームはさがり、さがった状態でもう一度押すと今度はあがります。

スタート ストップ START/STOP

自動演奏をする場合 または 途中で演奏を中止する場合、このボタンを押してください。

レコード演奏を開始するときに押すと“START”として、また 演奏中に押せば“STOP”として働きます。

< ARM >

トーンアームを手で移動させることも、また 下記のボタンで任意の位置まで移動させることもできます。

< : このボタンを押している間はトーンアームが持ちあがった状態で左へ移動し、指を離すとそのままの状態ですまります。

> : このボタンを押している間はトーンアームが持ちあがった状態で右へ移動し、指を離すとそのままの状態ですまります。

使いかた

ご使用前に

1. 電源をいれた途端、急に大きな音がでないようあらかじめ **音量** つまみを絞っておいてから、アンプの **SOURCE** スイッチを“PHONO”に切り替えます。

(注)・本機では出力電圧 0.3mV の MC カートリッジを使用しておりますので、MC カートリッジが使えないアンプをお持ちのかたは、MC 用の昇圧トランス または ヘッドアンプなどが必要です。

レコードの聞きかた

2. **POWER** ボタンを押してください。
本機に電源がはいると **SPEED** インジケーター および レコード検出用センサー光源が点灯します。
なお、お使いになったあとは、**POWER** ボタンをもう一度押して電源を切ってください。
3. レコードをターンテーブルにのせ、レスト台のクランプをはずします。
お使いになったあとは、トーンアームをクランプで固定しておいてください。
また、ドーナツ盤のように中心穴の大きいレコードの場合には、付属の EP アダプターをお使いください。

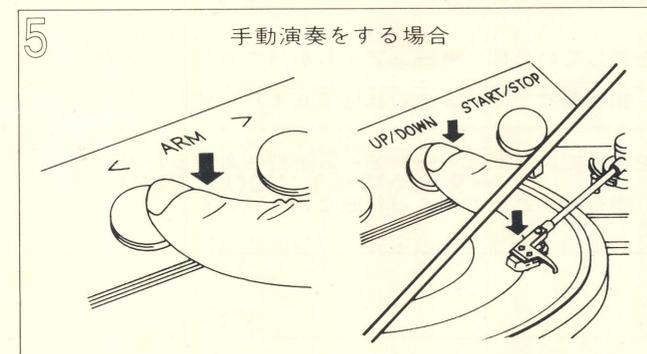
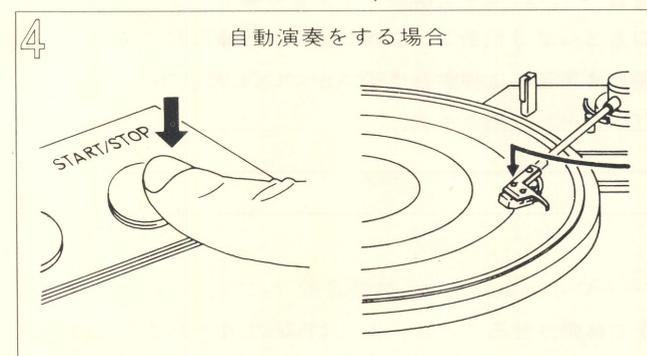
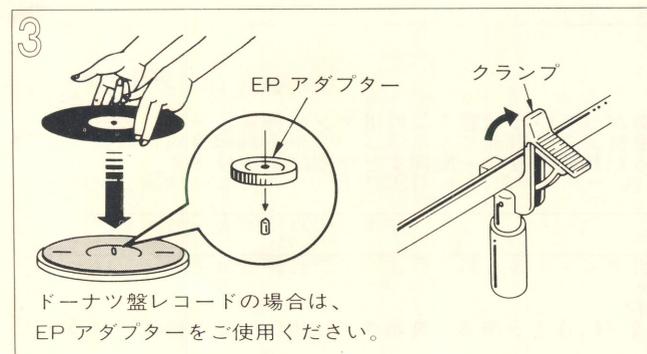
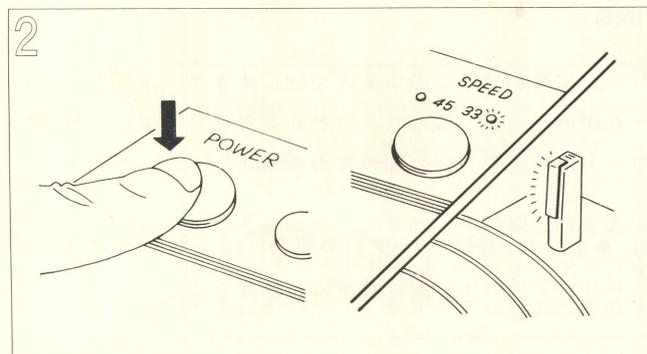
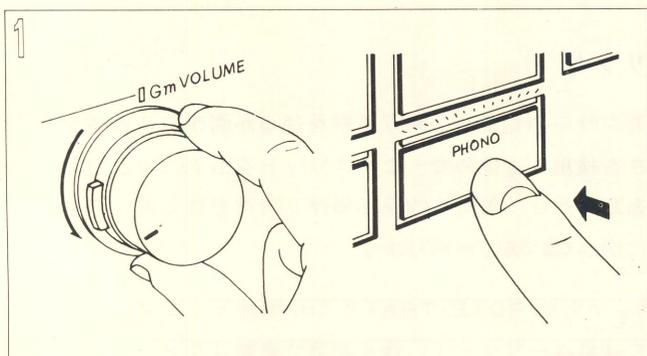
●自動演奏をする場合

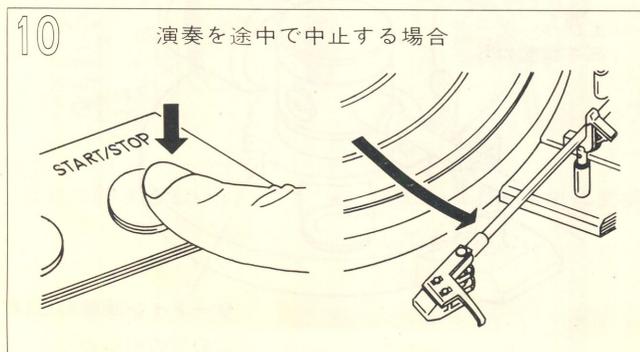
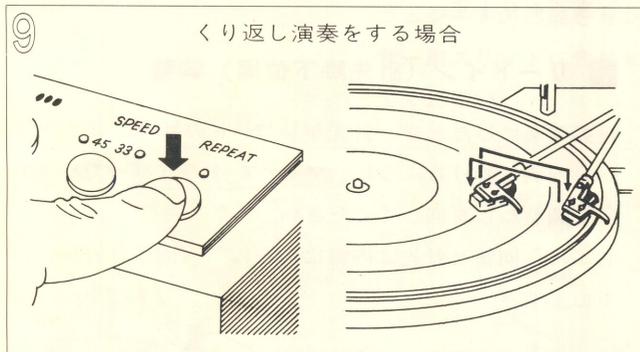
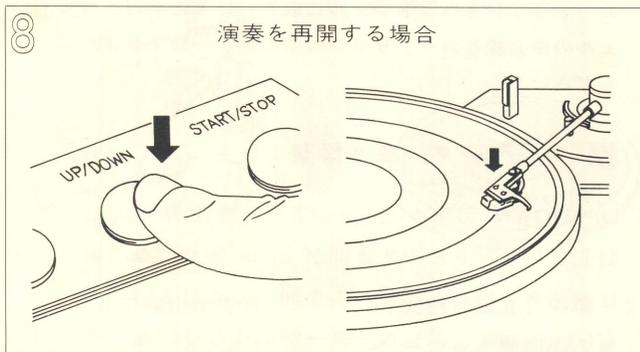
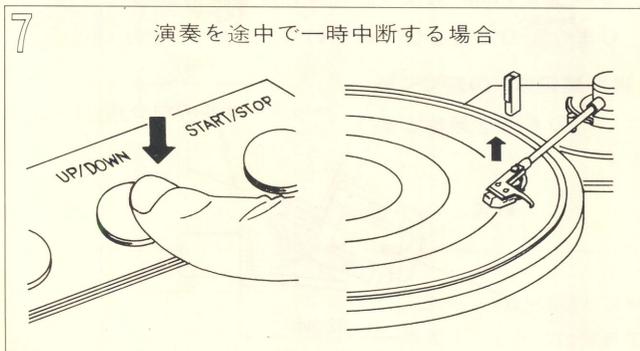
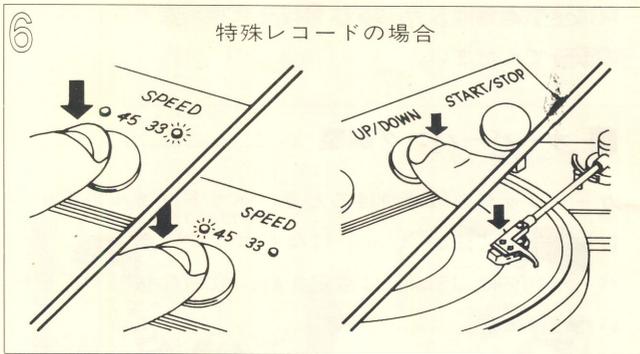
4. **START/STOP** ボタンを押してください。
センサーの働きでレコードの大きさと同回転数が自動的に検出され、演奏が開始されます。
なお、演奏が終るとトーンアームは自動的にレスト台まで戻され、ターンテーブルの回転も止まります。

(注)・ターンテーブルにレコードをのせないで、**START/STOP** ボタンを誤って押しても、センサーの働きでレコードの有無を検知し、ターンテーブルは回り始めますがすぐ止まります。

●手動演奏をする場合

5. トーンアーム送り用の“<”ボタンを押し続け、希望する位置へアームが移動してきたときに指を離し、**UP/DOWN** ボタンを押してください。
トーンアームが静かにレコード面に降下し、演奏が





開始されます。

(注)・本機では光センサーによってレコードを検出しておりますので、透明なレコードや色付きレコードあるいは特殊なレコードでは、正常に働かないことがあります。

このようなレコードのときには、かならず手動演奏にしてお聞きください。

●特殊レコードの場合

6. 17cm レコードで 33 $\frac{1}{3}$ 回転のものや 30cm レコードで 45 回転のような特殊レコードの場合には、それぞれレコードの回転数に合わせて、**SPEED** ボタンを押して、“33” または “45” に切り替えてください。

この場合、センサーの働きでレコードの大きさは自動的に検出され、トーンアームは所定の位置に降下します。

(注)・25cm レコードの場合には、自動演奏ができませんので手動演奏にてお使いください。

●演奏を途中で一時中断する場合

7. **UP/DOWN** ボタンを押して、トーンアームを持ちあげてください。

●演奏を再開する場合

8. もう一度 **UP/DOWN** ボタンを押してください。

●くり返し演奏をする場合

9. **REPEAT** ボタンを押してください。

インジケーターが点灯し、点灯している間は何回でもくり返し演奏ができます。

なお、くり返し演奏を解除するときには、もう一度 **REPEAT** ボタンを押すか、あるいは演奏中であれば **START/STOP** ボタンを押してください。

●演奏を途中で中止する場合

10. **START/STOP** ボタンを押してください。

トーンアームはレスト台に戻され、ターンテーブルの回転も止まります。

(注)・**REPEAT** インジケーターが点灯していてもレコード演奏を途中で中止した場合には、**リピート** インジケーターが消えてくり返し演奏も中止されます。

レコード針の交換

レコード針の寿命は、音溝のごみやほこりの付き具合で異なりますが、目安として大体次のようになります。

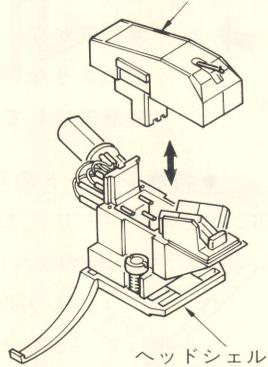
30cm ステレオレコード……………300時間 ~ 500時間

交換方法

ヘッドシェルをトーンアームからはずし、レコード針を図のようにまっすぐ持ちあげてください。簡単に取りはずすことができます。また、取り付けるときは、「パチン」と音がするところまでまっすぐ押し込んでください。

なお、レコード針を交換するとき以外は、不用意にレコード針をはずさないでください。

レコード針 (DT-100 IIEB)

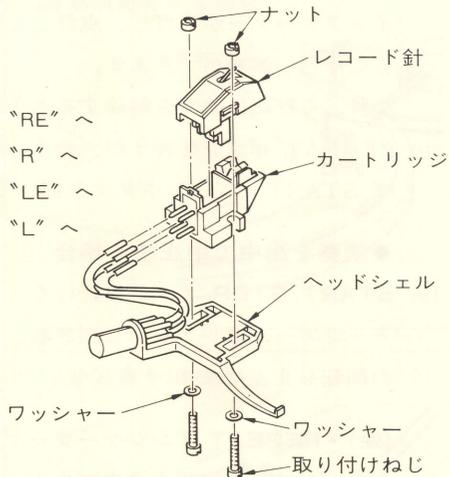


カートリッジの交換

次の要領でカートリッジを交換してください。

1. ヘッドシェルを取りはずし、カートリッジの取り付けねじ2本をはずします。
2. ヘッドシェルのリード線は次のようになっておりますので、極性を間違えないように注意して接続してください。

緑のリード線：“RE”へ
赤のリード線：“R”へ
青のリード線：“LE”へ
白のリード線：“L”へ



3. カートリッジをヘッドシェルに対してまっすぐ取り付けて軽くねじ止めしておき、「オーバーハング調整」をおこなってから固定します。
4. カートリッジを交換したときは、かならず「調整」の項をご参照のうえ、ご確認ください。

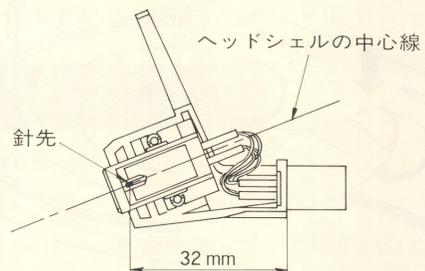
調整

次に示す調整は、カートリッジを交換したときのみおこなってください。

■ オーバーハング調整

カートリッジを取り付けるとき、ヘッドシェルの端から針先までの寸法が 32mm になるようにしますと、オーバーハングは 15mm に設定され、最適な状態でご使用いただけます。

なお、±1mm 前後の誤差は、それほど性能上問題になりませんので安心してお使いください。



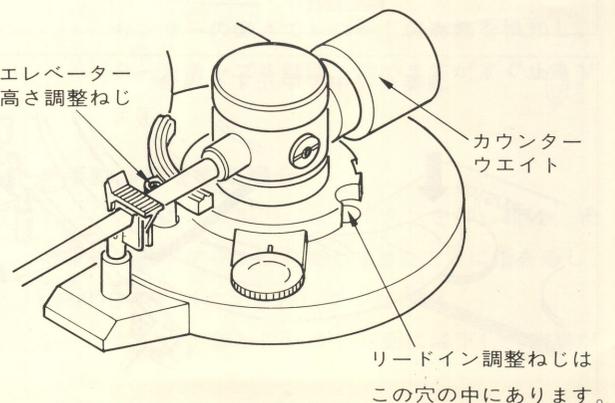
カートリッジをヘッドシェルに取り付けるときは、ヘッドシェルの中心線とカートリッジの中心線が一致するようにしてください。

■ エレベーター高さ調整

アップ ダウン
UP/DOWN ボタンでトーンアームを上昇させたとき、針先とレコードとのすき間が 6mm 前後になるよう、エレベーターの高さ調整ねじを回してください。右(↻)へ回すとエレベーターが低くなり、左(↺)へ回すと高くなります。

■ リードイン（針先降下位置）調整

自動演奏にしたとき、針先がレコードの外周より 3 ~ 4 mm 内側へおりに、マイナスドライバーでリードイン調整ねじを回してください。右(↻)へ回すと針先は内側に、左(↺)へ回すと外側に降下します。



故障？ と思う前に

— おや？ 故障かな？ と思ったら……………

修理を依頼する前にちょっとお確かめください—



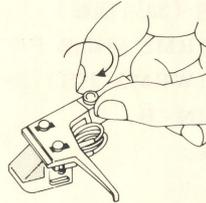
音がでない。

アンプ部の操作を間違っていないですか。



アンプ側の「取扱説明書」をご参照ください。

ヘッドシェルの固定用ねじがゆるんでいませんか。



ヘッドシェルをしっかりアームパイプに固定してください。

コードがはずれたり、接続を間違えていませんか。

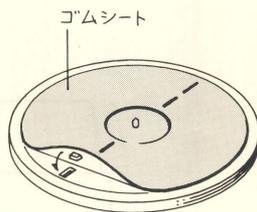


「アンプへの接続」の項・4ページをご参照のうえ、正しく接続してください。



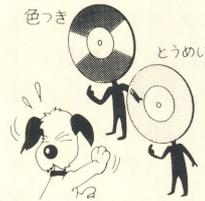
レコードの検出ができない。

ゴムシートの凸部がセンサー用スリットからはずれていませんか。



「開梱と組立」の項・3ページをご参照のうえ、ゴムシートの凸部をセンサー用スリットに合わせてください。

透明 または 色付きレコードをご使用ですか。



透明 または 色付きレコードの場合には、手動演奏でお楽しみください。

直射日光や強力なスポットライトなどが当たっていませんか。

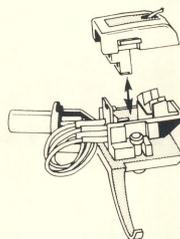


このような場合には正常に働かないことがありますので、手動演奏でお楽しみください。



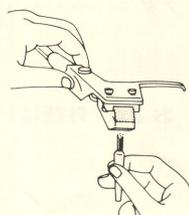
雑音で聞き苦しい。

レコード針が摩耗していませんか。



新しいレコード針に交換してください。

針先にほこりが付いていませんか。



針先のほこりは、刷毛できれいにふきとってください。

レコードが古かったり、ほこりが付いていたりしませんか。



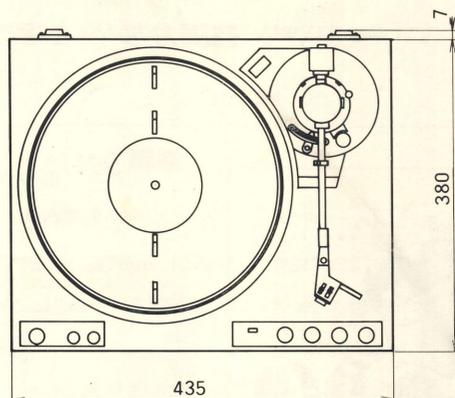
レコードクリーナーでほこりをふきとってください。

仕様

寸法図

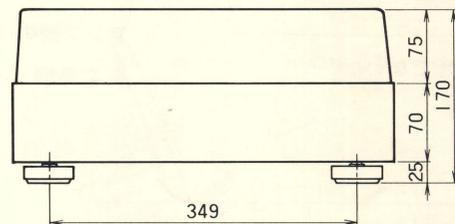
●モーター部

形式	クォーツロック・コアレス DC・FG サーボモーター
駆動方式	ダイレクトドライブ
回転数	33 $\frac{1}{3}$ 、45回転
速度検出方式	周波数検出方式 (FG方式)
起動特性	1回転以内 (33 $\frac{1}{3}$ 回転)
回転むら	0.008% (RMS回転部FG法) 0.025% (WRMS JIS)
S/N	80dB (DIN-B)
起動トルク	750 g・cm
ターンテーブル	32.7cm



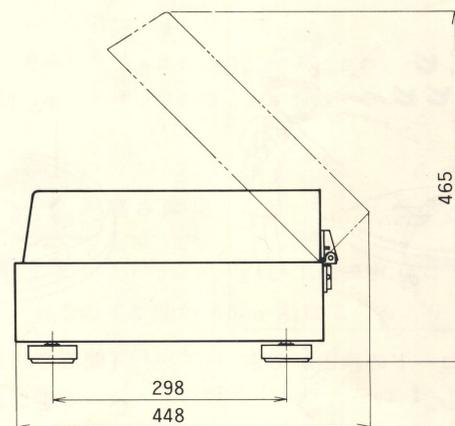
●トーンアーム部

形式	エレクトロサーボ方式 スタティック バランス型 電子ダンブ トーンアーム
有効長	220mm
トラッキングエラー	+4° ~ -0°43'
オーバーハング	15mm
針圧可変範囲	0g ~ 3g (0.1gステップ直読式)
適合カートリッジ重量範囲	4.7g ~ 10.0g



●カートリッジ部

形式	ムービングコイル MC型
型式	MC-100IIEB (楕円針)
周波数特性	20Hz ~ 50,000Hz
出力電圧	0.3mV (1,000Hz)
チャンネルセパレーション	25dB/1kHz (テストレコード: TRS-1)
負荷抵抗	100Ω以上 (ヘッドアンプ使用時) 30Ω (トランス使用時)
コンプライアンス	10×10 ⁻⁶ cm/dyne (ダイナミック)
交換針	DT-100IIEB (楕円針)
最適針圧	1.75g ± 0.25g



●その他

電源電圧	AC 100V (50Hz、60Hz 両用)
消費電力	演奏時: 9W (50Hz、60Hz) (⊕ 電気用品取締法基準) POWER OFF 時: 2.5W (50Hz、60Hz)
重量	9.8kg (本体)

付属品	EP アダプター..... 1
-----	-----------------

(注)・寸法の単位は mm です。

・上記の寸法は設計寸法ですので、ラック(棚)などに設置する場合は、若干の余裕を考慮してください。

(注)・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。



日本ビクター株式会社

ステレオ事業部

所在地 〒242 神奈川県大和市下鶴間甲10号1644番地 電話 (0462) 74-2121(代表)

お問合せ先 ビクターインフォメーションセンター 電話 (03) 580-2861

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号 (霞山ビル)